

がん治療について

がん治療には、手術療法、放射線療法、抗がん剤を用いた化学療法、そして緩和治療などがあります。近年ここに免疫療法が加わりました。

免疫について

免疫とは、細菌、ウイルスなどの外敵を見つけ攻撃する機能のことです。

免疫機能は、がん細胞も攻撃します。体に不都合なものを処理することで体を守っています。

免疫療法について

がん細胞は、免疫から逃れるために免疫細胞にブレーキをかける機能を持っています。

がん細胞によって免疫細胞にブレーキがかけられるとがん細胞から体を守ることができません。

免疫療法は、免疫細胞に対するがん細胞へのブレーキを抑えます。この作用により、がんの治療を行っていきこうというものです。

今までの抗がん剤を用いた化学療法との違いについて

今までの抗がん剤を用いたがん治療は、抗がん剤によりがん細胞の活動を止めて、がん細胞を小さくしたり、なくしたりする治療でした。この治療は、体の正常な細胞にもダメージを与え、骨髄に作用して免疫の機能が弱まり、細菌やウイルスに対する抵抗力が低下したり、髪の毛を伸ばす細胞に作用し、毛が抜たり、消化管に作用して吐き気を催したりします。

免疫療法は、免疫細胞の機能を高めることによってがん細胞を抑える治療のため、抗がん剤を用いた治療のような副作用は起こりにくく、また、頻度も少ないことがわかっています。

一方、免疫細胞の機能を高めることで、抗がん剤を用いた治療とは違った副作用が報告されています。

副作用について

免疫療法は、がん細胞に対する免疫機能を高めることでがん細胞を抑えます。

しかし、免疫が間違っって自分の細胞を攻撃してしまう副作用が知られています。

いくつかを以下に挙げます。

1. 間質性肺疾患：

(症状) 息切れ、呼吸困難、発熱、乾いた咳、疲労



2. 重症筋無力症、心筋炎、筋炎、横紋筋融解症：

(症状) 筋力低下、まぶたが重い、呼吸困難、筋肉痛、吐き気、
動悸、胸痛、尿が赤くなる



3. 大腸炎、重度の下痢：

(症状) **下痢、排便回数の増加、腹痛、血便**



4. 糖尿病：

(症状) **血糖の上昇、口が乾く、水分摂取が多くなる、尿回数が増える**



5. 免疫性血小板減少性紫斑病：

(症状) **鼻血、歯茎・皮下の出血**



6. 肝機能障害、肝炎、胆管炎：

(症状) **皮膚や白目が黄色くなる、疲労感**



7. 甲状腺機能障害：

(症状) **倦怠感、むくみ、寒く感じる、動作が鈍くなる、汗をかきやすくなる、**

体重減少、眼球が出る、甲状腺が腫れる、動悸、手の震え、不眠



8. その他：神経障害、腎障害、副腎障害、副腎機能不全、脳炎、 重度の皮膚障害、静脈血栓塞栓症など

以上重篤な場合は死亡例も報告されています。

また、点滴時に急性のアレルギー、発熱、悪寒、かゆみ、発疹、血圧の変動、呼吸困難等があらわれることがあります。

●副作用が発現する時期は、開始初期から治療継続後も報告されています。

副作用の対処には、早期発見が重要です。これらの副作用を早期に発見

するため定期的な検査を行います。また、副作用の症状を感じ気になったら

些細なことでもスタッフに相談してください。これらの副作用が起こった

場合、速やかに適切な処置を行います。